

2022年

3月のカレンダー

学びの広場

みんなのちからで30余年
 (昨年9月に35年目を迎えました)

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
				スタッフ ミーティング 10~1時	金曜デイ 10~13時 アート	
6	7	8	9	10	11	12
				スタッフ ミーティング		青年の会 10~13時
13	14	15	16	17	18	19
				スタッフ ミーティング	金曜デイ 10~13時 織りもの	織りもの 10~12時
20	21	22	23	24	25	26
				スタッフ ミーティング		青年の会 10~13時
27	28					
	織りもの 10:30~12:30					

3月の活動についてのお知らせ

今月の活動予定は表記の通りです。

- ・金曜デイ
3/4、18 の2回、10~13時で
参加して頂きます。
- ・青年の会
3/12、26に、人数を分けて
参加して頂きます。



その他グループ活動はもうしばらくお休みです。



★学びの広場に入室する時には、マスクの着用、手指の消毒をお願いします。また、ご家庭での検温など健康管理にご協力ください

学びの広場

TEL&FAX 042-322-7160

H P <http://manabinohiroba.com/>

E-mail hiroba@pop17.odn.ne.jp





『蜜柑』



昨年の秋頃だったでしょうか…。夕方の帰り道、道路の真ん中にある生きものらしきものをスマートフォンのカメラで撮影している男性がいたので、動物好きの私は迷わず立ち止まって声を掛けました。その生きものはキジバトという種類の鳩でした(駅や公園でよく見かけるドバトよりも羽がオレンジ色掛かっていて綺麗なので、その名がピッタリの鳩です)。まだ体が小さく幼鳥でした。多くの野鳥は巣立ってから、自分で餌が取れるようになるまでは親が餌をあげているので、私はその男性がこのキジバトのヒナを可哀想に思って家に連れて帰ったりしないように、念のためその事を伝えると、男性は「でもこの鳩、目が見えないんですよ」と言いました。よく見ると怪我が病気で両目にデキモノの様なものがあり、目が塞がっていました。私は「ほんとですね…このままじゃ車に轢かれちゃいますね。連れて帰られますか？」と訊ねると「いや、うちは…」と男性は首をかしげるので「それじゃ私が連れて帰ってみますね」と、目の見えない鳩のヒナは、私に保護され、そして自宅へ連れて帰りました。

私は、SNSで鳥の保護グループを見つけて、このキジバトの幼鳥に関する相談の投稿をしてみると、沢山の方からお礼やアドバイスのメールが届き、スポットを使った水の与え方や餌のやり方などを丁寧に教えてくれました。幸い家に簡単なスポットがあったので、マスクと手袋をして教わった通りにやってみると、何とか水を飲んでくれました。

翌日、動物病院や野鳥の会などと当たってみました…残念ながらその時の私の納得のいく答えはありませんでした。法律でいうと原則として、野生動物を保護すること自体が違反になるようで…ある機関の担当者からは「元いた場所の安全なところに放してください」と言われました。「目が見えないのですぐに死んでしまいますから、僕のところである程度元気になってからでは？」と聞いてみたら、それも違反ですと…。元々野生では、病気の幼鳥などは長く生きられないので、それで命を落としても自然ということなのでしょう。

とにかくこのハトが元気になることを優先して、そのあとに野鳥のことに詳しい専門の方の意見なども参考にしながら、私の思うこのハトにとっての最善の方法を考えたいと思っていました。

その日の夜、私の力が及ばず、保護していた目の見えないキジバトの幼鳥は息を引き取りました。

自分はこの命に対して、精一杯向き合ったのか…。野生動物を甘く見ていたのではないのか…。もっと危機感と責任感を持って手を尽くせなかったのか…。でもあのままにしていたらもっと早くに…という自分に弁解する心…。一瞬ホッとしてしまった自分…。そうした思いを嫌悪する自分…。いろんな思いが巡りました。

次の日、小雨の降る中、キジバトの幼鳥を庭の片隅に埋めました。真ん中に植えた蜜柑の苗は、元気に育っています。

(柳澤正敏)

注)野生動物保護に関するルールの観点から、また、病気などを持っている可能性もありますので、皆さんはマネをしないで下さい。